

1. 基本情報

評価対象年度 ( 令和4 年度)

施策コード	211	施策名	高齢者の支援
将来像	2	健幸でともに支え合うまち(「支え合い」の分野)	
まちづくりの基本目標	21	ともに支え合って生活するまち	
担当部	生涯健康部	担当課	介護保険課

2. 施策の方向

10年後の姿	医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステムが構築され、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしています。		
施策の方向性	1	高齢者が安心できる暮らしを支援します	
	2	高齢者のいきいきとした暮らしを支援します	
	3	医療と介護の情報共有、情報交換ができるしくみをつくります	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和4年度決算額
敬老記念事業	2	福祉総務課	3,298
高齢者住宅事業	1、2	福祉総務課	44,141
老人いこいの家運営管理事業	2	福祉総務課	77,662
後期高齢者保健事業	1、3	保険年金課 健康推進課	106,519
介護人材育成定着支援事業	1	介護保険課	557
介護保険等推進事業	1、2	介護保険課	23,758
介護予防・生活支援サービス事業	1、3	介護保険課	1,933
介護予防・生活支援サービス給付事業	1、3	介護保険課	178,969
一般介護予防事業	1、2	介護保険課	14,292
包括的支援事業・任意事業	1、2、3	介護保険課	124,049
総事業費(施策の合計)			575,178

4. まちづくり指標

指標情報				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	地域包括支援センターの機能の認知度		目標値	60.0	65.0	65.0	65.0	70.0
	説明	地域包括ケアシステムの中核機関であるため	単位 %	実績値	58.0(※1)	60.4			
	抽出方法	介護保険事業計画策定に係るアンケート(3年に1回実施)		達成率	96.7%	92.9%			
②	名称	シルバー人材センター会員目標就業実人員数		目標値	773	736	744	753	761
	説明	技能や経験を生かした働く機会の確保や社会参加の尺度	単位 人	実績値	674	697			
	抽出方法	当該センターの事業報告		達成率	87.2%	94.7%			
③	名称	高齢者が地域で見守られて安心して暮らすことができていると思う人の割合		目標値	50.0	50.0	55.0	55.0	55.0
	説明	高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本目標	単位 %	実績値	41.1(※2)	41.1(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	82.2%	82.2%			
④	名称	高齢者が地域で自分らしくいきいきと暮らしていると思う人の割合		目標値	60.0	60.0	65.0	65.0	65.0
	説明	高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本目標	単位 %	実績値	44.9(※2)	44.9(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	74.8%	74.8%			

※1 令和元年度実績値である。

※2 ③④抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和4年度実績に対する)

評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価)	維持	<p>●認知症対策については、チームオレンジの立ち上げにより、認知症当事者の市民が安心して居場所(オレンジハウス)ができた。実働は認知症サポーターステップアップ講座を受講したボランティアである。認知症当事者が趣味を生かし、支える側にもなることにより、自分らしく生活する姿がみられる。また、認知症の進行を防ぐ一つの手段ともなっている。チームオレンジの活動により、認知症当事者とその支援者は地域で支えられ、安心して生活することにつながっている。</p> <p>●地域包括支援センターの運営については、松山地区を委託し、市で運営する直営地域包括支援センターが基幹型包括となることにより、市全域を今まで以上に見ることができるようになった。高齢化率が高くなり、身寄りのない、独居の高齢者も多くなっていることから、困難事例や虐待等も増えてきており、各地域包括支援センターのバックアップもスムーズとなった。松山地区を委託する際は、チラシを作成し、市内全戸配布を実施し、周知を図った。</p>

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和4年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症が5類となったが、利用控えなどもあり、高齢者のフレイル進行が心配される。また、行政の手続きを含め、様々な手続きがデジタル化している。引き続き、高齢者向けのデジタルデバインド対策を講じる必要がある。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	介護保険業界において人材確保が困難な状況にあり、市内事業所でも最小限の人員で事業運営にあたっている。今後、多様化・増加する介護サービスに対応するには、介護人材の確保及び定着支援が必要である。
	課題に対する令和6年度以降の取組	介護人材の育成だけでなく、人材の定着につながるよう、介護職員等永年勤続表彰、PRイベント、介護事業所に対する研修等、育成・定着につながる施策を継続可否も含めて検討していく。
②	施策を進める上での課題	高齢者が安心して生活するためには、認知症サポーターだけでなく、市内全域で市民全体が見守ることができる状況にする必要がある。
	課題に対する令和6年度以降の取組	市民に対して、認知症を含む高齢期の状況を伝えていく。市民の理解を得ることで、全体的な見守りを行い、支援することへつなげていく。中心となる地域包括支援センターの周知を図るために、様々な媒体を用い、普及啓発を継続して実施していく。